

<学校評価アンケート結果の考察>

設問1 「元気よく挨拶していますか？」(児童のみ回答、今年度より)

「自分からしている」60.5%、「おこうからされたらしている」38.5%、「していない」1.0%となった。しかしながら保護者や地域の方々からは、まだまだ挨拶できていないとのご意見をいただくことが多い。相手に伝わってこそその挨拶。教師も範を示しながら、学校全体で元気よく挨拶することを励行していきたい。

設問2 「人の話をしっかり聞くことができますか？」(児童のみ回答、今年度より)

「できている」49.5%、「まあまあできている」46.2%、「あまりできていない」3.9%、「できていない」0.4%となった。学校生活の様々な場面で実際に確認してみると、たった今話されたことが頭の中に入っていない児童も少なくない。単に人の話を聞くだけではなく、その話について理解したり考えたりする能力を培いたい。

設問3 「周りをよく見て行動できていますか？」(児童のみ回答、今年度より)

「できている」45.3%、「まあまあできている」47.4%、「あまりできていない」6.5%、「できていない」0.8%となった。学校という集団生活の場であるからこそ、良好な人間関係を構築するために必要な感性を養いたい。いじめ防止、けが防止の観点からも、引き続き注力していきたい点である。

設問4 「自分の考えを伝えることができますか？」(児童のみ回答、今年度より)

「できている」32.2%、「まあまあできている」43.1%、「あまりできていない」20.4%、「できていない」4.3%となった。今年度から新たに重点項目に加えたものであり、児童たちはまだ自信をもてないようだ。しかし、期初から取り組んでいる「しのぎっ子タイム」によって、少しずつではあるがどの子も自分の思いを言葉にすることができるようになってはきた。「相手に分かってもらえるように」「相手にとって分かりやすく」という観点からはまだまだ途上であるゆえ、場面設定等の工夫をしながら児童の「伝える力」を育てていきたい。

設問5 「子どもたちは毎日楽しく学校生活を送っていると思いますか？」

保護者回答では「非常にそう思う」「そう思う」を合わせると93.7%(R6年度91.4%)で、児童回答では「とても楽しい」「楽しい」を合わせると90.7%(同90.8%)であった。保護者・児童ともに、学校生活における満足度は高い水準を維持していると言える。

一方で不登校傾向にある児童も少なくなく、教室以外のスペースを提供する等の工夫を施している。スクールカウンセラー、心の教室相談員、関係諸機関とも連携し、教員以外の視点から児童にアプローチしていく体制をより一層充実させていくことも重要であると考え。担任に任せっきりになることのないよう教職員間で情報共有を行い、学校全体で児童を支えていく教育現場の構築を目指したい。

設問6 「子どもにとってわかりやすく楽しい授業がなされていると思いますか？」

保護者回答では「非常にそう思う」「そう思う」を合わせると88.5%（R6年度89.3%）、児童への「授業はわかりやすいですか」に対する回答は「とてもわかりやすい」「わかりやすい」を合わせると93.3%（同91.0%）となった。保護者回答の「非常にそう思う」は15.9%（R6年度11.1%）となっており、ここ数年力を入れてきた授業改善の成果が出ているのではないだろうか。ただし、「あまりよくわからない」「わからない」と答えた児童が合わせて6.7%いる点も見逃せない。

現在は、タブレット端末を効果的に利用した授業について教職員間で研修や情報共有を重ね、その充実を図っている。また、今年度も引き続き全担任が互いの授業を公開し合い、指導方法の研究を行った。今後もわかりやすく楽しい授業作りへの努力を一層重ねていきたい。

設問7 「教師は子どもたちを理解して指導していると思いますか？」

保護者回答では「非常にそう思う」「そう思う」は合わせて88.1%（R6年度87.6%）と前年度並み、児童への「先生はあなたのことを分かってくれていますか」に対する回答は「よく分かってくれている」「分かってくれている」を合わせると93.7%（同95.0%）となった。

今後も褒めるべき点は大いに褒め、改めるべき点はきちんと指導するといった姿勢を大切にしていきたい。一方で日々起こるトラブルに対しては、学級・学年でのタイムリーな指導、相互理解に繋げる話し合いを地道に続けている。教育相談期間を長く設けて児童一人一人と話す時間を十分に作り、児童理解に努めてきたことも大きいだろう。今後も児童一人一人の様子に目を配り、児童の声によく耳を傾け、内面をしっかり捉えた指導を心がけていきたい。

設問8 「学校は子どもたちの健康や安全に十分配慮していると思いますか？」

保護者の「非常にそう思う」「そう思う」は合わせて90.4%（R6年度93.0%）であり、昨年度比2.6ポイント下落した。大規模リニューアル工事の影響で児童の通路が狭くなったり、本館と北館との動線が東側1F渡り廊下一本のみとなっていたりと、施設面では懸念材料が増えている。

一方、本校では現職教育の一環として、AED研修、食物アレルギー対応委員会、嘔吐物処理講習、不審者対応訓練を行い、いざという時に適切な対応ができるよう、全教職員で研修・研鑽に努めている。また、夏場は熱中症予防対策として熱中症指数のチェックやこまめな休憩・水分補給など、常に教職員間で声を掛け合って児童の健康面に配慮し続けてきた。

今後も、児童の健康面や安全面を十分考慮した上での環境整備を心がけていきたい。

設問9「学校は、開かれた学校づくりのため、家庭や地域に適切に対応していると思いますか？」

保護者の「非常にそう思う」「そう思う」の合計は88.8%（R6年度89.5%）であり、ほぼ前年度並みであった。教職員の働き方改革の観点からも引き続き学校教育活動の精選は行っていくものの、来年度以降も可能な限り開かれた学校づくりに取り組んでいきたい。

今年度の教育活動について

SNSによって他者と安易に交流できる環境が、児童のコミュニケーション能力を低下させている。本校では、始業式、終業式、朝会などの集会の度に、校長自ら「進んで挨拶をする、人の話をしっかり聞く、周りをよく見る、自分の考えを伝える」という4つの目標を全校児童に訴え続けてきた。また、今年度からソーシャル・スキル・トレーニング「しのぎっ子タイム」を実施し、心身ともに健全な児童の育成を目指して教育活動を推進している。今後も、チーム篠木で児童の学校生活を全力で支えていきたい。

<学校評議員のご意見>

教育活動のアンケート結果および本校の考察を元に、学校評議員の皆様からお寄せいただいたご意見です。

【子どもたちの様子をご覧になって】

- ・まち探検で2年生が訪ねてくれるが、とても真剣に話を聴いてくれます。その姿がとても愛らしいです。
- ・今日の「6年生を送る会」でも、すごいと思って見ていました。先生方も子どもたちにパワーをもらえている部分もあるのではないかと思います。

【学校評価アンケート結果をご覧になって】

- ・重点項目について。先生と子どもの回答に食い違いがあるのは、世代間ギャップの側面もあるのではないのでしょうか。自分も職場でZ世代との感覚の違いを痛感することがあります。例えば集合時間。我々は「10分前には」という感覚で育ってきましたが、今の若い方はオンタイムで集合するのでこちらが戸惑ってしまうこともあります。子どもたちが悪いわけではなく、価値観が変わってきていることが大きいのではとも思います。社会が求める「で

きている」というのはこういうことなんだよ、挨拶は相手に伝わらないと意味がないんだよ、ときちんと教えてあげることが必要だと思います。

【学校評価アンケートの中で、保護者から寄せられた具体的なご意見について】

- ・学校に言うようなことではないのでは、ご家庭の問題ではないのかな、という内容がいくつかあるように思います。
- ・先生が子どもを叱ったことに対して、ちょっとしたことだと思うのですがそこでクレームを言ってくる親がいるのだなと思いました。先生は数多くの児童を見ている中で子どもたちに注意をするのであって、そこを分かってもらえないと、と思います。一方で、叱り方の工夫も必要かなと思います。
- ・子どもは、お家で自分に都合のよい言い方をします。なぜ子どもが言ったことをそのまま信じてしまうのかなと思います。
- ・クロムブックの持ち帰りやキュビナの活用については、どのような利点があるのかを説明しとあげると理解が得られるのではないかと思います。
- ・不満をもっている親が意見を言うので、どうしてもそれが目につきますが。不満をもっていない親は何も言ってきません。それでも御礼を述べる親がいるということは、よく思っている人もたくさんいるということではないでしょうか。
- ・親に何を言われても、誇りをもって負けずに頑張ってもらいたいと思います。先生の熱心さが伝われば、子どもたちもついてくると思います。

【その他】

- ・今現在PTA活動を引っ張っていつてくれている保護者の子が卒業していったら、PTAはどうなっていくのだろうと心配しています。
- ・(学校評議員が) 授業参観をする際に、一つの教室でもっとじっくりと授業を見たいです。
- ・H&Sで送られてくる添付ファイルの資料がスマホだと見にくいと感じます。

以上